

平成26年度(平成27年3月31日現在)貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
現金及び預貯金	2,964	保険契約準備金	31,548
現金	1	支払準備金	14,238
預貯金	2,963	責任準備金	17,309
有価証券	45,614	その他の負債	4,763
国債	29,590	外国再保険借	10
社債	513	未払法人税等	180
外国証券	15,510	預り金	33
有形固定資産	726	未払金	1,780
土地	219	仮受金	2,606
建物	309	資産除去債務	97
その他の有形固定資産	197	その他の負債	54
無形固定資産	2,529	退職給付引当金	1,816
ソフトウェア	1,110	役員退職慰労引当金	67
ソフトウェア仮勘定	1,305	賞与引当金	298
のれん	114	特別法上の準備金	70
その他の資産	5,930	価格変動準備金	70
未収保険料	0	負債の部合計	38,565
代理店貸	34	(純資産の部)	
再保険貸	0	資本金	17,221
外国再保険貸	541	利益剰余金	2,401
未収金	3,011	その他利益剰余金	2,401
未収収益	33	繰越利益剰余金	2,401
預託金	175	株主資本合計	19,622
地震保険預託金	9	その他有価証券評価差額金	822
仮払金	2,124	評価・換算差額等合計	822
繰延税金資産	1,280	純資産の部合計	20,445
貸倒引当金	35		
資産の部合計	59,010	負債及び純資産の部合計	59,010

(貸借対照表の注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法は次のとおりであります。
  - (1) その他有価証券のうち時価のあるものの評価は、期末日の市場価格等に基づく時価法により行っております。
 

なお、評価差額は全部純資産直入法により処理し、また、売却原価の算定は移動平均法に基づいております。
  - (2) その他有価証券のうち時価を把握することが極めて困難と認められるものの評価は、移動平均法に基づく原価法により行っております。
2. 有形固定資産の減価償却は、定率法により行っております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については、定額法によることとなります。
3. 資産に計上している自社利用のソフトウェアの減価償却については、当社内における利用可能期間(原則5年)に基づく定額法によることとなります。また、のれんについては、5年間で均等償却しております。
4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算は、外貨建取引等会計処理基準に準拠して行っております。
5. 貸倒引当金は、資産の自己査定基準及び償却・引当基準に基づき、次のとおり計上しております。
 

破産、特別清算、手形交換所における取引停止処分等、法的・形式的に経営破綻の事実が発生している債務者に対する債権及び実質的に経営破綻に陥っている債務者に対する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額等を控除し、その残額を引き当てております。

今後、経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に対する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を引き当てております。

上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率を債権額に乗じた額を引き当てております。

また、全ての債権は資産の自己査定基準に基づき、対象資産の所管部門が資産査定を実施し、当該部署から独立した財務部並びに内部監査部が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引き当てを行っております。
6. 退職給付引当金は、従業員の退職給付に充てるため、当期末における退職給付債務の見込額に基づいて、当期末までに発生していると認められる額を計上しております。
 

なお、数値計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により発生年度から費用処理することとしております。
7. 役員退職慰労引当金は役員の退職金の支払いに備えるため、内規に基づく当期末の要支給額を計上しております。
8. 賞与引当金は、従業員の賞与に充てるため、支給見込額に基づいて計上しております。
9. 価格変動準備金は、株式等の価格変動による損失に備えるため、保険業法第115条の規定に基づき計上しております。
10. 消費税等の会計処理は、税抜方式によることとなります。ただし、損害調査費、営業費及び一般管理費等の費用は、税込方式によることとなります。
 

なお、資産に係る控除対象外消費税等は仮払金に計上し、5年間で均等償却を行っております。
11. 「退職給付に関する会計基準(企業会計基準第26号 平成24年5月17日、以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)を当事業年度より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更しております。
 

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当事業年度の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を繰越利益剰余金に加しております。

この結果、当事業年度の期首の退職給付引当金が33百万円増加し、繰越利益剰余金が24百万円減少しております。また、当事業年度の経常利益及び税引前当期純利益はそれぞれ2百万円減少しております。
12. 金融商品の状況に関する事項
  - (1) 金融商品に対する取組方針
 

資産の運用にあたっては、保険業法第97条及び保険業法施行規則第47条、48条等の関連法令・規則、及び内規等を遵守しており、安全性、流動性、及び収益性に配慮し、中長期的に安定した収益の確保を目指して、主として債券への投資を行っております。
  - (2) 金融商品の内容及びそのリスク
 

有価証券は、主に国債と外国証券(社債および社債等に投資している円貨建外国投資信託を含む)であり、これらは市場リスク、信用リスク及び流動性リスクに晒されております。

また、未収金は、主に保険料の収納代行先に対する債権であり、収納代行先の信用リスクに晒されております。なお、預貯金は高格付けの金融機関にて管理しており、未払金は短期間で決済される一般経費が大半であるため、リスクは僅少と考えております。
  - (3) 金融商品に係るリスク管理体制
 

当社では、資産運用に伴うリスクに関する基本事項を定め、社内外に存するリスクに対処し、顧客の資産、株主

資本の維持を図ることを基本原則とし、資産運用リスク管理方針を制定しております。また、当方針の円滑な運営に資するため、資産運用規則を制定しております。当規則に従い、資産運用部は適正な運用を行うとともに、資産運用全体のリスクを管理する機関として「ALM・資産運用委員会」を設置し、運用成果及びリスク評価の検証を行っております。各リスクの管理体制は、以下のとおりです。

(信用リスク)

資産運用部は資産運用規則等に従い、信用リスクに係る有価証券投資を行います。有価証券の格付状況は資産運用部により随時モニタリングがなされ、与信状況によっては、資産運用規則に沿って資産売却の検討がなされます。また、未収金については、財務部が月次で勘定精査を行い、長期滞留の未然防止に努めております。

(市場リスク)

金利リスクの管理

ALM・資産運用委員会で定める所定の金利ストレスシナリオ下においても、適正な単体ソルベンシー・マージン比率を維持できるポートフォリオの構築を行っており、当該ストレステスト結果については、四半期毎にALM・資産運用委員会へ報告しております。

為替リスクの管理

為替リスクは原則としてヘッジすることとしております。

価格変動リスクの管理

所定のストレスシナリオ下においても、適正な単体ソルベンシー・マージン比率を維持できる各資産の投資比率の上限を設定しており、リスク管理部が月次でモニタリングを行っております。

また、財務部では、有価証券の時価を定期的にモニタリングしており、時価の顕著な下落が認められた場合には速やかにALM・資産運用委員会にて協議する態勢を整えております。

(流動性リスク)

当社では、必要な手元流動性所要額を資産運用リスク管理規則に定め、財務部が、当該所要額の確保状況を随時モニタリングしており、当該検証結果については、四半期毎にリスク管理部へ報告しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成27年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については次のとおりであります。

(単位：百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預貯金	2,964	2,964	-
(2)有価証券	45,614	45,614	-
その他有価証券	45,614	45,614	-
(3)未収金	3,011	3,011	-
資産計	51,591	51,591	-
(4)未払金	1,780	1,780	-
負債計	1,780	1,780	-

(注) 金融商品の時価の算定方法

(1)現金及び預貯金、(3)未収金及び(4)未払金

これらは全て短期間で決済されるため、時価は帳簿価格にほぼ等しいことから、当該帳簿価格によっております。

(2)有価証券

保有有価証券の時価は、日本証券業協会の公表する価格によっております。一部日本証券業協会で公表されない商品については、取引金融機関から提示された価格によっております。

13. 有形固定資産の減価償却累計額は704百万円であります。

14. 親会社に対する金銭債権総額は16百万円であり、金銭債務総額は8百万円であります。

15. 繰延税金資産の総額は1,829百万円、繰延税金負債の総額は279百万円であります。また、繰延税金資産から評価性引当金として269百万円を控除しております。繰延税金資産の発生の主な原因別の内訳は、IBNR 備金583百万円、退職給付引当金523百万円、異常危険準備金470百万円であります。繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳はその他有価証券に係る評価差額金273百万円であります。

法人税等の税率の変更等による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。

これに伴い、平成27年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異等に係る繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の30.75%から28.82%となります。

この税率変更により、繰延税金資産(繰延税金負債を控除した金額)が純額で85百万円減少し、当期純利益は103百万円減少しております。

16 支払備金及び責任準備金の内訳は次のとおりであります。

(支払備金)	
支払備金(出再支払備金控除前、(口)に掲げる保険を除く)	18,386 百万円
同上に係る出再支払備金	4,332 百万円
差引(イ)	14,054 百万円
地震保険及び自動車損害賠償責任保険に係る支払備金(口)	184 百万円
計(イ+口)	14,238 百万円
(責任準備金)	
普通責任準備金(出再責任準備金控除前)	18,807 百万円
同上に係る出再責任準備金	3,771 百万円
差引(イ)	15,036 百万円
その他の責任準備金(口)	2,273 百万円
計(イ+口)	17,309 百万円

17 1株当たりの純資産額は59,361円04銭であります。算定上の基礎である純資産額は20,445百万円であり、その全額が普通株式に係るものであります。また、普通株式の当期末発行済株式数は344千株であります。

18 退職給付に関する事項は次のとおりであります。

(1)退職給付債務及びその内訳	
退職給付債務	1,854 百万円
未積立退職給付債務	1,854 百万円
未認識数理計算上の差異	37 百万円
退職給付引当金	1,816 百万円
(2)退職給付債務等の計算基礎	
退職給付見込額の期間配分方法	給付算定式基準
割引率	1.40%
数理計算上の差異の処理年数	5年

19 金額は記載単位未満を切り捨てて表示しております。

平成26年度 平成 26年 4月 1日 から  
平成 27年 3月 31日 まで 損益計算書

(単位:百万円)

科 目	金 額
<b>経常収益</b>	<b>36,416</b>
<b>保 険 引 受 収 益</b>	<b>35,663</b>
正味収入保険料	35,644
積立保険料等運用益	19
その他の保険引受収益	0
<b>資 産 運 用 収 益</b>	<b>377</b>
利息及び配当金収入	395
有価証券売却益	0
有価証券償還益	0
その他の運用収益	0
積立保険料等運用益振替	19
<b>そ の 他 経 常 収 益</b>	<b>375</b>
貸倒引当金戻入額	8
その他の経常収益	366
<b>経常費用</b>	<b>33,506</b>
<b>保 険 引 受 費 用</b>	<b>22,220</b>
正味支払保険金	19,697
損害調査費	2,956
諸手数料及び集金費	3,394
支払準備金繰入額	1,172
責任準備金繰入額	1,788
その他の保険引受費用	0
<b>資 産 運 用 費 用</b>	<b>14</b>
有価証券売却損	0
為替差損	14
<b>営 業 費 及 び 一 般 管 理 費</b>	<b>11,260</b>
<b>そ の 他 経 常 費 用</b>	<b>10</b>
貸倒損失	5
その他の経常費用	5
<b>経 常 利 益</b>	<b>2,910</b>
<b>特 別 利 益</b>	<b>247</b>
固定資産処分益	0
その他の特別利益	246
<b>特 別 損 失</b>	<b>26</b>
固定資産処分損	6
特別法上の準備金繰入額	20
価格変動準備金繰入額	( 20 )
<b>税 引 前 当 期 純 利 益</b>	<b>3,131</b>
法人税及び住民税	349
法人税等調整額	187
<b>法 人 税 等 合 計</b>	<b>536</b>
<b>当 期 純 利 益</b>	<b>2,594</b>

(損益計算書の注記)

1. 親会社との取引による収益総額は506百万円、費用総額は395百万円であります

2. 正味収入保険料の内訳は、次のとおりであります。

収入保険料	46,499 百万円
支払再保険料	10,855 百万円
差引	35,644 百万円

正味支払保険料の内訳は、次のとおりであります。

支払保険金	25,850 百万円
回収再保険金	6,153 百万円
差引	19,697 百万円

諸手数料及び集金費の内訳は、次のとおりであります。

支払諸手数料及び集金費	677 百万円
出再保険手数料	4,071 百万円
差引	3,394 百万円

支払備金繰入額(は支払備金戻入額)の内訳は、次のとおりであります。

支払備金繰入額(出再支払備金控除前、(口)に掲げる保険を除く)	1,634 百万円
同上に係る出再支払備金繰入額	475 百万円
差引(イ)	1,158 百万円
地震保険および自動車損害賠償責任保険に係る支払備金繰入額(口)	14 百万円
計(イ+口)	1,172 百万円

責任準備金繰入額(は責任準備金戻入額)の内訳は、次のとおりであります。

普通責任準備金繰入額(出再責任準備金控除前)	1,221 百万円
同上に係る出再責任準備金繰入額	354 百万円
差引(イ)	1,575 百万円
その他の責任準備金繰入額(口)	212 百万円
計(イ+口)	1,788 百万円

利息及び配当金収入の内訳は、次のとおりであります。

預貯金利息	0 百万円
有価証券利息・配当金	394 百万円
その他利息・配当金	0 百万円
計	395 百万円

3. 1株当たりの当期純利益は7,533円23銭であります。算定上の基礎である当期純利益は2,594百万円であり、その全額が普通株式に係るものであります。また、普通株式の期中平均株式数は344千株であります。なお、潜在株式がないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益は算出しておりません。

4. 損害調査費、営業費及び一般管理費として計上した退職給付費用は322百万円であり、その内訳は次のとおりです。

勤務費用	242 百万円
利息費用	22 百万円
数理計算上の差異の費用処理額	57 百万円
退職給付費用	322 百万円

5. その他特別利益は、グループ会社からの広告費補助金202百万円、旭川市等からの企業立地に係る助成金収入が44百万円であります。

6. 関連当事者との取引

兄弟会社等

属性	会社等の名称	所在地	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合(%)	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
親会社	アクサ・エス・アー	フランス	子保険会社等の事業の支配・管理	-	広告費補助金	202	-	-
親会社	アクサ生命保険株式会社	東京都港区	生命保険業	-	代理店手数料 事務費等	247	代理店貸 未収金 未払金	16 0 8
親会社の 子会社	アクサ・グローバル・ピー・アンド・シー	フランス	保険業	-	出再保険料 出再手数料 出再保険金	10,745 4,056 6,125	外国再保険貸	541

(注) 1. 取引金額、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等：取引については、通常行われている取引条件等に基づき決定しております。

7. 金額は記載単位未満を切り捨てて表示しております。